湖東普及だより

H30
夏号

編集発行
滋賀県湖東農業農村振興事務所農産普及課（発行責任者：北川　良治）
（湖東農業普及指導センター）
〒522-0071　彦根市元町４番１号
TEL：0749-27-2228　FAX：0749-23-0821　E-mail：ga32@pref.shiga.lg.jp
ホームページアドレス：http://www.pref.shiga.lg.jp/hikone-pbo/nogyo/
Facebook アドレス：https://www.facebook.com/hukyuudayori.kotou

二次元コードはこちら→

確実な需要が見込める「みずかがみ」を！

「みずかがみ」が ３年連続『特Ａ』を取得しました。

滋賀県が育成した「みずかがみ」は、夏の暑さに強く、直近3か年では1等米比率が８８％以上と品質が安定している品種です。

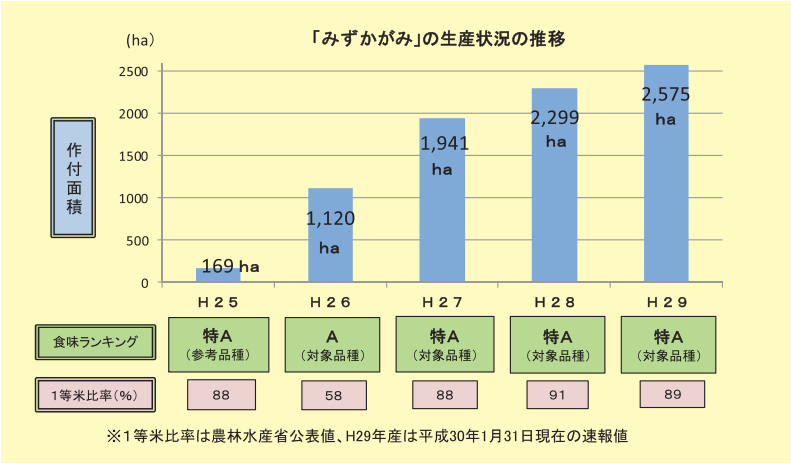
８月下旬が収穫時期の早生品種で、ほどよい粘りとまろやかな甘みがあり、冷めてもおいしいのが特徴です。

一般財団法人　日本穀物検定協会が公表した平成29年産米の食味ランキングで、３年連続で最高ランクの「特A」に評価されました。

”売れるお米”として多くの実需者から生産拡大を求められています。

「みずかがみ」の栽培は、平成２５年度に１６９ｈａでスタートし、３０年には、県内で２，６１４ｈａとなり、面積は増加しています。また、全量を環境こだわり米で生産しているため、安全安心なお米として消費者のみなさんからも高い評価を得ており、需要が確実に伸びています。

しかし、消費者の購入希望数量に対して生産が追い付いていないため、積極的な作付け拡大が必要です。



より激しくなる産地間競争に打ち勝つためには、地域で一丸となって作付け拡大を図る必要があります。県では、平成３１年産目標面積を３，０００ｈａ以上に設定し、さらなる面積拡大を目指しています。

認めよう　あなたと私の　違うとこ　（彦根市　はーとふるメッセージ 2017 入賞作品）

水田に野菜を作付ける際のポイント！

湖東管内では、水稲・麦・大豆を中心とする土地利用型経営による農業が行われています。しかし近年、米の需要が減ってきていることをうけ、園芸品目を導入して複合経営を行い、所得の安定を図る生産者も増えています。そのなかでも、キャベツ・ブロッコリー・タマネギなどを水田で栽培する取り組みが年々拡大しています。前回の普及だよりでは水田野菜の作付け拡大について紹介したので、今回は水田野菜を作付けするポイントを紹介します。

ポイント１　排水対策～明きょ・排水溝～

キャベツ・ブロッコリー・タマネギは湿気を嫌います。そこでまず、麦跡で排水のよいほ場を選び額縁状の排水溝をしっかりと施工します。うね立て成形機を利用した高うね栽培は、湿気(しけ)るほ場では生育を促進しますが、排水溝にしっかりつなげておかないと、十分な効果を得られませんので、うね立て後には各溝が排水口につながるようにします。

図1は排水性の高い溝の作り方です。すべての縦溝を水尻側の溝につなぐことで排水性が高くなります。

図2、図3は省力的な溝の作り方です。手堀部分をできるだけ少なくすることができますが、枕地から水尻までの排水溝の本数が少ないので、しっかりと溝を整備します。

外周の四隅はしっかりつなぎ、水尻側の溝はできるだけ深く掘ることが大切です。

図.1 より排水性の高い事例

図.2 省力的な事例 1

図.3 省力的な事例 2

ポイント２　害虫対策

定植直後の若い苗は害虫の食害に遭いやすいため、初期の管理が大切です。

定植前のセル苗に専用の殺虫剤を潅注する処理が有効です。潅注剤の持続効果は定植後 ３～ ４ 週間で、それ以降は発生に応じて薬剤散布を行います。病害虫が多発してからの薬剤散布では効果が得られないので、防除暦を参考に、こまめにほ場の観察を行い、早めの対応を心がけます。

キャベツを食害する
ハスモンヨトウ

ポイント３　雑草対策

除草剤には土壌処理剤と茎葉処理剤があります。定植前や直後に散布する土壌処理剤は、草が生えていない状態で行います。除草剤の効果はうね立て時に砕土や均平を丁寧に行うことや、除草剤散布後の潅水を生育に問題のない範囲で控えることにより高まります。

また、散布直後に降雨があると効果が安定しないため、散布後の天気も考えて計画的に作業を進めます。土壌処理の後、雑草が生えてしまったら、イネ科雑草は茎葉処理剤を処理し、その他の雑草については早めの中耕を行います。雑草が繁茂すると作物が健全に育たず、減収につながるため、雑草の管理も適期に行いましょう。

乗用管理機で通路の中耕
を行ったほ場

大豆の安定生産のポイント

排水対策の確認と適期播種

大豆が生育しやすいほ場条件をつくるためには排水対策が重要です。麦跡の大豆作では排水溝を点検し、早期に排水溝をつくりましょう。

適期に播種を行い出芽を安定させることは、安定的に生育する必要条件となります（右表参照）。播種時期は降雨が多い時期と重なるので、一日の作業量を考えて、耕起から播種までの一連の作業を効率的に行えるように作業計画を立てることが重要です。

播種の目安

品種	播種適期
オオツル	6月中旬～6月下旬
タマホマレ	6月中旬～6月下旬
ことゆたか	6月中旬～7月上旬
フクユタカ	7月上旬～7月中旬

注）条間70cm×株間10cm播種を想定した播種時期

近年、増えている大豆の難防除雑草

雑草が原因となる収量や品質の低下が起こっています。

大豆の生育後半に発生する雑草は、播種直後に散布する土壌処理除草剤では十分な効果が期待できません。特に雑草が多いほ場では、丁寧な中耕培土の実施、収穫前の抜取り作業とともに、生育期間中に除草剤を散布しましょう。広葉雑草対象除草剤の茎葉処理または非選択性茎葉処理除草剤のうね間・株間・スポット処理が有効です。

除草体系を組み合わせ、雑草種子がほ場に残らないようにしましょう。

大豆ほ場に発生した
マルバルコウ

加工向け切り花栽培の推進

写真左の組花は「仏花」と呼ばれ、ヒサカキ、中輪ギク、リンドウ、小ギク、カーネーション、スターチス、ホオズキなどが使われています。ホームセンターなどで見かける仏花は、組花加工業者が市場から 80 ㎝程度の規格品を仕入れ、裁断や脱葉などの加工を施して販売されています。加工工程を生産者側で行い、45 ～ 65 ㎝規格で出荷するということを県から市場や組花加工業者に提案したところ、８月の盆需要の小ギクや中輪ギクの生産を強く要望されるようになりました。また、農業技術振興センターにより、野菜移植機を用いた小ギクの定植や (写真中央)、中輪ギクの少量土壌培地耕システムによる栽培技術 (写真右) が確立され、省力作業や安定生産が可能です。管内でも、５戸の農家が水稲育苗あとハウス利用や花き専用ハウスで中輪ギクを５月中旬に定植し、８月に出荷されています。関心のある方は個人、集落営農を問わず、ぜひ当課までご相談ください。

ホームセンターなどで
販売されている仏花

小ギクの機械移植

中輪ギクの少量土壌培地耕

青年農業者紹介

近藤諭志さん　多賀町久徳

大阪のIT関連企業を退職後、農業大学校就農科で、野菜コースを専攻し、この春に修了されました。今は施設イチゴと施設イチジクの経営を開始され、イチゴはこの冬から収穫が始まります。近藤さんは「自分の作るイチゴで多賀町の活性化に貢献したい」という想いを持って、日々イチゴ栽培を行われています。この冬の収穫が楽しみです！

中嶋　彩さん　愛荘町下八木

県内の園芸農家に勤務し、多種の野菜栽培に携わられた後、この春に農業大学校就農科の野菜コースを修了されました。今は施設イチゴの経営を開始され、この冬からイチゴの収穫が始まります。「楽しむ気持ちを忘れずにポジティブ思考でありたい」と日々農業に取り組まれています。かわいいキャラクターの看板で、皆様をお待ちしています！

農業大学校で農業を学びませんか！！

滋賀県立農業大学校(専修学校)では、本県農業を担う優れた青年農業者等を養成する「養成科」と就農に必要な技術と知識を修得、就農するための「就農科」があります。

昭和44年の開校以来、１,１７５名が卒業し、就農や農業法人への就職、ＪＡや機械・資材・種苗などの農業関連企業、市場卸売り会社などで活躍されています。

オープンキャンパスは、平成30年７月７日(土)と９月８日(土)に行われます。詳しくは同校教務担当（0748-46-2551）または農産普及課までお問い合わせください。また、就農科を希望される方は、願書受付開始までに、必ず就農予定地の農産普及課にご相談ください。

各科の願書受付期日

	養成科(修業２年)		就農科(１年間)
	推薦入試	一般入試（一次※）	
募集定員	30 名		10 名
願書受付期間	平成 30 年１０月２日～１０月１７日	平成 30 年１１月 27 日～１２月５日	平成 30 年 12 月 20 日～平成３１年１月 24 日
応募資格	滋賀県内に在住で、平成３１年３月に高等学校卒業見込みの者で成績優秀な者	高等学校を卒業した者および平成 31 年３月卒業見込みの者等	20 歳以上 65 歳未満 修了後、県内で農業経営を行うことが確実な者等

※定員に達しない場合、二次募集あり